

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成30年6月30日(土) 18:02~18:05 於)相馬市)

1. 発言要旨

今日は、まず最初に檜葉町の商業施設、「ここなら笑店街」のオープンセレモニーに出席をしました。

その後、葛尾村、南相馬市、相馬市を回ってまいりました。

「笑ふるタウン」という街を檜葉町でつくって、そこは医療関係、福祉関係がそろっているのですけれども、今回、商業施設という形で、「ここなら笑店街」というものをつくりました。26日にオープンし、多くの方が、いっぱい、10店舗の商店が参加をしていただいて、にぎわいをつくっていく施設でございます。

葛尾村では、農業倉庫、防災備蓄倉庫、そしてニット製造の金泉ニットという工場を見てまいりました。

南相馬市では、介護老人保健施設のヨッシーランドも視察をしてまいりました。

相馬市では、アイ・テックという、鉄鋼を加工して物流をやっている会社を見てまいりました。

そして最後に、この相馬のIHIグリーンエネルギーセンターを訪問いたしました。ここは全てのエネルギーを循環させて使い切っていく、地産地消を実験しているところでございますので、大変参考になったところです。

2. 質疑応答

(問) 檜葉町はすごく活気があったかと思うんですけれども、その後、葛尾に行かれて、そのまま北上されましたけれども、やはり改めてですけれども、大臣の目に復興の進捗状況なんかは、やっぱり地域によって変わるのかなと思うんですけれども、そういった面では。

(答) 市町村によってステージがございます。

例えば、檜葉は、避難指示解除してから2年9か月経っており、いわゆる復興に本格的に取り組み始めてから一定の時間が経っている、時間の経っていないところと時間の経っているところと、これは差があるのは当然のことでございますので、そういう意味では、それぞれのステージで、それぞれの町村が努力をして、まちづくりに取り組んでいる姿を見させていただきました。

(問) あとすみません、もう一点、モニタリングポストの縮小の関係なのですけれども、先日の報道でもありましたが、只見町で説明会があったときに、住民の方から時期尚早である、逆に不安になるみたいな声もあったようですけれども、そちらへの対応という

のは。

(答) 最初に原子力規制庁から、私のところにモニタリングポストを外したいというお話がございました。

その話を最初に聞いたときに、私はいわき市に住んでいますから、モニタリングポストはもう私たちの生活の一部になっているんですね。そこが、放射線の専門家という方は、学問的に、科学的にはもう安定した放射線量なんだからモニタリングポストは必要ないという意見だったと思うんですけど、きちんと住民に丁寧な説明をしてくださいと言ったところなんです。

そして、案の定ですね、規制庁の丁寧な説明がまだ足りないということ、県内各地を回ったところは、それが出てきたのかなという、そんな感じを今は持っています。

(問) 改めてですけれども、これまでもおっしゃっていますが、より丁寧な説明をということなんです。

(答) 規制当局には、より丁寧な説明をしていただきたいというのが私のお願いです。

(以 上)